

日本の大学がサンフランシスコ・ベイエリアに設置する
海外拠点の活動内容調査

サンフランシスコ研究連絡センター

中嶋 璃香

1. はじめに

日本学術振興会 (JSPS) サンフランシスコ研究連絡センターは、JUNBA (Japanese University Network in the Bay Area、以下「JUNBA」という。)の事務局機能を担っており、毎月 1 回 JUNBA の加盟拠点大学を当番校制で持ち回りで会場として理事会を開催するほか、例年 1 月には JUNBA ○○ (○は開催年度が入る) と銘打った大規模なシンポジウムを開催し、日本の大学の国際化、人材養成、日本の大学が直面する具体的な課題について議論する場を設けている。筆者は、日本学術振興会国際学術交流研修の一環で、JSPS サンフランシスコ研究連絡センターの国際協力員として同センターに赴任し、2015 年 4 月 1 日の着任後から、JUNBA の理事会へ参加させていただく機会を得た。そこで各大学拠点で働く方々と交流するうちに、各大学拠点の活動内容や運営方法について関心を持つに至った。

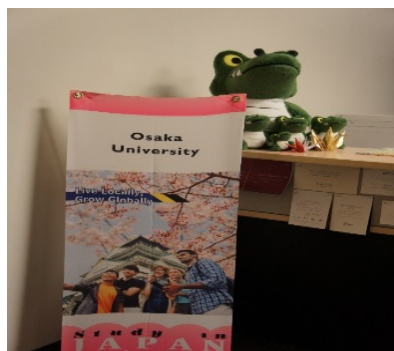
2. 各拠点大学における取組

この章では、JUNBA の正会員として活動を行なっている加盟大学のうち、大阪大学・九州大学・早稲田大学・福岡工業大学の在米拠点担当者に活動内容詳細についてインタビュー調査を行なった結果をまとめる。本章にとりまとめたインタビュー内容については、各拠点担当者に口頭で回答いただいた内容をもとに、適宜筆者が要約と抜粋を行なったものであるため、各拠点の回答者には本報告書での記述に関して責任が発生しないことを予め申し添える。

2-1. 大阪大学北米センター

インタビュー実施日：2016年1月25日

インタビュー対応者：樺澤 哲 センター長



大阪大学北米センター受付

センター概要

設立年：2004年

職員数：センター長及びプログラムコーディネーター（現地採用）の2名

所在地：44 Montgomery street, Suite 3580, San Francisco, CA 94104, U.S.A

URL：<http://osaka-u-sf.org/ja>

活動内容

大阪大学北米センターは大阪大学の教育研究の世界的な展開を目的に北米に設置された拠点であり、主な活動としては、「情報収集・発信拠点」、「国際教育拠点」、「国際共同研究拠点」、「北米同窓会事務局」の4つの機能を担っている。このうち、国際教育拠点としては、大阪大学北米センターを活用した遠隔講義（D-Learning）や、短期（語学）研修、SF/シリコンバレー研修・インターンシップをはじめとした語学研修等の実施支援を行なっている。

遠隔講義（D-Learning）参加レポート

2016年2月16日から18日の3日間にかけて、大阪大学北米センターにて実施された遠隔講義のうち、2月17日の遠隔講義を見学した。「Critical Thinking, Discussion in English」を目標として実施される遠隔講義は、大阪大学豊中キャンパスと大阪大学北米センターの講義を双方向に中継するもので、前半は大阪大学豊中キャンパスでの John Ino 教授（カリフォルニア大学サンフランシスコ校）の講義模様を大阪大学北米センターへ中継し、後半は大阪大学北米センターでの Hiroshi Fukurai 教授（カリフォルニア大学サンタクルーズ校）の講義を豊中キャンパスへ中継して行なわれた。前半の大阪大学豊中キャンパスの講義中継では、受講生は6名程度のグループに分かれ、Ino教授から身近なトピックを基にした Critical Thinking について学びながら、身近な例をもとに Ino 教授から投げかけられる質問に対してグループ内で繰り返し意見を交換さ

せ、フィードバックを行なうことで知識の定着を図っていた。**Critical Thinking** という抽象的な概念を理解する方法として、身近なトピックを使用したり、繰り返しグループ内で意見交換を行なわせることはとても有用だと感じた。後半の Fukurai 教授の講義では、**Critical Thinking** だけでなく、Fukurai 教授自身のこれまでのキャリアや英語勉強方法もシェアする場となっており、受講生にとっては日本にいながらアメリカの第一線で活躍する研究者と触れ合うことのできる貴重な機会となっていると感じた。



遠隔講義（大阪大学豊中キャンパスの講義中継）の様子



遠隔講義（大阪大学北米センターの講義中継）の様子、講義中の Fukurai 教授

大阪大学北米センターのこれから

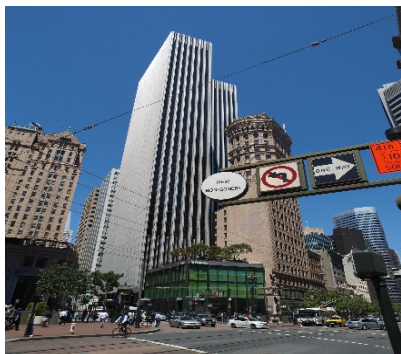
大阪大学北米センターで行なっている英語研修は、学生時代に生の英語に接することのできる貴重な機会である。日本では勉強できない研修プログラム実施校によっては現地の大学生と勉強や言語を教えあうバディ制度を実施しており、生きた英会話を、現地の学生等と触れ合い学ぶことができる。プログラム中の危機管理、安全面や心理面でのサポートも大阪大学本部・部局と連携して円滑に実行されており、これまで大きな問題はおきていない。

大阪大学北米センターでは、遠隔講義か各種研修プログラムなどの活動内容をさらに発展させていくとともに、今後はよりセンターのプレゼンス向上に取り組んでいく。具体的にはエクステンションカレッジに類似した新機能をセンターに付与できないか検討しているとのことであった。

2-2. 早稲田大学サンフランシスコオフィス

インタビュー実施日：2016年1月26日

インタビュー対応者：服部 令 所長



早稲田大学オフィスが入っているビル外観、オフィス内風景

センター概要

設立年：2012年

職員数：所長及び現地採用職員の2名

所在地：44 Montgomery Street, Suite 2440, San Francisco, CA 94104, U.S.A

URL：<http://www.waseda.jp/inst/us-office/en/>

活動内容

早稲田大学サンフランシスコオフィスの前身は1999年に開設されたアメリカのオレゴンオフィスである。早稲田大学サンフランシスコオフィスは、オレゴンオフィスが長年にわたり実施してきた学生交流分野プログラムの実施機能を受け継ぎ、発展させることと、研究面での支援等、他のニーズに対応するために拠点を移動したものの。

センターの主な活動は、以下の6つである。

- ・「教育活動サポートと研究活動サポート」
- ・「早稲田大学教職員及び学生のリスクマネジメント」
- ・「学生リクルート」
- ・「協定校及び協定機関との共同プロジェクト」
- ・「同窓会（稲門会）活動サポート」
- ・「JUNBA 関連活動」

早稲田大学サンフランシスコオフィスのこれから

現在、北米に留学する早稲田大学生は年間800名以上（短期的なプログラム参加者を含む）となっている。早稲田大学は在学中に一度は留学を経験してもらうことを目標に掲げているため、

現在の協定校 100 校との関係を維持しながら、学生交流プログラムのための協定校開拓の推進に業務上のエフォートを置いている。また、協定校の拡充だけでなく、現在実施している留学プログラムを充実させるべく、北米の同窓会と留学プログラム参加者との交流会のアレンジ、同窓会 OBOG を招いてのキャリアセミナーの開催なども行なっている。さらにセンタープレゼンス向上のための地元フリーペーパー・フェイスブック等への情報発信、JSPS サンフランシスコ研究連絡センターが事務局を務めている JUNBA の関連活動への参加など、活動内容は多岐に渡っている。

2-3. 九州大学カリフォルニアオフィスインク

インタビュー実施日：2016 年 2 月 4 日

インタビュー対応者：松尾 正人 代表

センター概要

設立年：2004 年

職員数：センター長及び現地採用職員 2 名が常駐、九州大学の事務職員 1 名が不定期に派遣

所在地：900 East Hamilton Ave., #100, Campbell, CA 95008, U.S.A

URL：<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/california/>

活動内容

センターで実施している主なプログラム等は、以下のとおりである。

- ・「英語+起業家精神研修 (QE+EP)」
- ・「ロバート・ファン起業家精神研修 (QREP)」
- ・「教員英語研修 (EEP/ELITE)」
- ・「遠隔授業」

松尾代表は九州大学卒業後、日本の化学メーカーに就職、アメリカ駐在員として 40 年以上アメリカに滞在しており、九州大学カリフォルニアオフィスインク開設当初から現在まで代表をつとめる。上述の九州大学カリフォルニアオフィスで実施しているプログラムは、松尾代表のこれまでのアメリカでのご経験や、グローバル人材とは何か、といった松尾代表の明確な意識のもと企画・運営されていると感じた。インタビューでは松尾代表の考えるグローバル人材の定義、日本のビジネスマンに足りないもの、学生時代に身に着けるべき力などを伺うことができた。

学生に身に着けてほしい力と、プログラムの運営について

松尾代表の研修プログラム企画には、代表の問題意識が反映されている。松尾代表は大学卒業後、企業のアメリカ駐在員として日本企業の出張者を受け入れてきた際、日本の技術者は優秀な技術を持っているが、ヒューマンスキルとビジネスセンスに欠けている、と感じてきたという。具体的には、日本では優秀なビジネスマンがアメリカに来ると無能になる、具体的には英語のレ

ベルが低い、異文化の人との交渉経験がなく、日本のこともあまり知らないので自己主張できない、技術者としては優秀だが専門外のことに弱い、といったことである。これらの長年の問題意識から、グローバル人材になるには、以下の5つが重要だと考えられている。

- ・自分で考え、自分の意見を持ち、外に向かって発言する力（見識力）
- ・日本を愛し、優れたところを理解し、まわりに説明する力（日本力）
- ・世界のスタンダードを身につけ、異文化の人と付き合う力（世界力）
- ・自分の強い専門を持ち、同時に幅広い知識を持つ力（T型人間力）
- ・そして、英語を抵抗なく話す力（英語力）

九州大学カリフォルニアオフィスインクのホームページに公表されている実施報告(2015年度SVEP(シリコンバレー英語研修)実施報告)を読むと、これらの問題意識がレベル別の語学研修・第一線で活躍する方を招いた特別講義・課題解決方法を学ぶワークショップ、ホームステイや現地学生との交流会、研修で得たことを発表するファイナルプレゼンテーションなどに反映されていることが分かる。

プログラムの実施中も学生がより学びを得られるよう工夫しており、期間中はオフィスのスタッフ等が語学研修講義に付き添い、講義内容をともに受講し、わかりづらい講義であれば必要に応じて講師に随時フィードバックを行なっている。またプログラム期間中は学生の様子に注視し、メンタル面に配慮し適宜相談に乗るなど、プログラムの企画から運営まで、細部まで学生をフォローしているとのことだった。

特別講義（英語+起業家精神研修（QE+EP）の研修内容の一つ）参加レポート

インタビューを実施した2016年2月4日午後、英語+起業家精神研修（QE+EP）の研修内容の一つである特別講義を見学させていただいた。ベンチャーキャピタリストである講師により、現在の投資先や最新技術の紹介、会社を立ち上げ、軌道に乗せるまでの並大抵ではない苦勞、ビジネス人として成功するための秘訣などが講演された。また、講師は企業家として成功するためには自信と夢と希望を持つこと、分からないことは口にせず自分で勉強することが大切であることなど、様々な示唆を学生に与える講演となっていた。

2-4. 福岡工業大学カリフォルニア事務所

インタビュー実施日：2016年1月27日

インタビュー対応者：米田 達郎 福岡工業大学国際戦略担当理事、吉井 啓子 所長

事務所概要

職員数：所長1名

所在地：1150 Ballena Blvd, Suite 250, Alameda CA 94501, U.S.A

URL：https://www.fit.ac.jp/contact_caloffice/index（問い合わせフォーム）

活動内容

福岡工業大学カリフォルニア事務所では、グローバル人材育成のための研修プログラムとして、カリフォルニア州立大学イーストベイ校との協働によるプログラム（学生向けには ACE プログラム・STAR プログラム、教職員向けには FAST プログラム、LEAD プログラム）の実施実績を持っている。今回お話を伺ったのは、このうち教職員向けの FAST プログラム、LEAD プログラムである。

教職員向けのグローバル人材育成プログラム（FAST/LEAD プログラム）

「FAST プログラム（FIT Administration Staff Training）」

FAST プログラム（以下、「FAST」と言う。）は、福岡工業大学職員の国際化への意識改革と大学運営のビジョンを共有する目的で組み立てられたプログラムで、米国における先進的な教育や大学経営戦略のビジョンを学び、職員の国際的な能力開発を積極的に行い、学生支援及び大学運営にフィードバックすることを目的としている。実施背景としては、2000 年ごろ福岡工業大学の学生志願者が年々減少していたことから、この先の教職員の人材育成を検討すべく、開始したということである。FAST は 2002 年ごろに試行され、その後プログラム内容に改善を加えて、2009 年度に本格実施される運びとなった。

FAST のプログラム内容としては、1 チーム 4 名を所属の異なる中堅職員レベルで編成し、4 つのテーマ（Branding, Academic, Student Service, External Relations）別にカリフォルニア大学イーストベイ校に 2 ヶ月間派遣するというもので、1 年間で 2~3 チームが派遣されてきた。その後大多数の事務職員が FAST に参加したことから、2013 年度に FAST を終了、LEAD プログラムに形を変えて存続している。

「LEAD プログラム（Leadership of Education & Administration Development）」

LEAD プログラム（以下、「LEAD」と言う。）は、FAST 終了後に新たに始動したプログラムであり、対象者は教員及び職員となっている。教員・職員双方が教育の質の改善と保証を行なう Educator（教育者）として、大学の将来を担う次世代リーダーを養成することを目的としており、若手の教員 2 名・職員 1 名でチームを構成し、米国大学の教育研究環境を体験するとともに、教育研究の運営に関する幅広い知見と深い洞察力を養成すると同時に、FD/SD の一環として研修先での教育や調査を実践する内容となっている。プログラム実施期間は職員は 1 年、教員は 1~2 ヶ月間となっている。

FAST・LEAD 双方のプログラムで特徴的だと感じたのは、語学研修の要素を消してプログラム内容が組み立てられていることである。また、内容も一方的に学びを得るものではなく、受け入れ先大学の副学長クラスの上級管理者によるレクチャー及び研修テーマに関連した双方の機関の意見交換が中心となっており、最終的には受け入れ先機関への助言を含めた提案をチームでまとめて発表することとなっていることである。また、プログラム期間中は福岡工業大学構成員が研修参加者の学びを知ることができるよう、研修で得られた知見などをブログに載せる、帰国後は研修報告書を作成して教職員全員に内容を共有するなど、参加しなかった（できなかった）教職員に対しても情報の共有を徹底していることである。Web にアップされた報告書は、学内構成員の 4 割が閲覧しているという。

これまでの FAST/LEAD 実施による成果やフィードバックについては、「日常業務だけをこなすより、世界的な視野が広がる」、「様々な所属・年代の参加者とキャリアの共有ができる」、「違う所属のスタッフと期間中深く交流することにより、帰国後の業務がやりやすくなる」といったことが挙げられた。

3. おわりに

今回インタビューを実施したのは4つの海外拠点と限られているが、各拠点長にお話を伺い、活動内容の詳細や日本の若者に対する問題意識などについて情報収集できたことは非常に有意義であった。

今回の報告書作成にあたり、快くインタビューをお引き受けいただきました、大阪大学北米教育センター 樺澤 哲センター長、早稲田大学サンフランシスコオフィス 服部 令所長、九州大学カリフォルニアオフィスインク 松尾 正人代表、福岡工業大学カリフォルニア事務所 米田 達郎氏（福岡工業大学国際戦略担当理事/カリフォルニア州立大学イーストベイ校教授）、同事務所 吉井 啓子所長に深くお礼申し上げます。

また、2年間の国際学術交流研修の中でお世話になりました、日本学術振興会東京本部人物交流課、日本学術振興会サンフランシスコ研究連絡センターの皆様、また今回の研修の機会を与えて下さいました名古屋工業大学の皆様にも、この場を借りて深くお礼申し上げます。

4. 参考文献一覧

- ・早稲田大学サンフランシスコオフィス

<http://www.waseda.jp/inst/us-office/en/> (2016年2月8日アクセス)

- ・早稲田大学

<http://www.waseda.jp/top/> (2016年2月8日アクセス)

- ・早稲田大学 News

サンフランシスコオフィスを開設 アメリカ西海岸の有力な研究・教育機関との学術交流強化へ

<http://www.waseda.jp/top/news/6345> (2016年2月8日アクセス)

- ・大阪大学北米センター

<http://osaka-u-sf.org/ja/> (2016年2月8日アクセス)

- ・九州大学カリフォルニアオフィスインク
<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/california/> (2016年2月8日アクセス)
- ・福岡工業大学
<http://www.fit.ac.jp/kyoiku/kokusai/index> (2016年2月8日アクセス)
- ・JUNBA (Japanese University Network in the Bay Area)
http://www.junba.org/aboutus_j.html (2016年2月8日アクセス)